

老人クラブの地域社会との連携・協働 に関する一考察

A Study on Collaborative Activities between Senior Citizen's Clubs and Local
Communities

張 静*・今田寛典**

Jing ZHANG* and Hirofumi IMADA**

地方の中小都市においては少子高齢社会が進展し、限界集落の状況まで起きている。地方の財政は厳しく、行政も住民を含めた地域全体で地域社会の維持を計っていこうとしている。本研究は、高齢者自らが地域と連携して社会貢献している実態を調査、分析する。特に、地域の各地区で活動している老人クラブを調査対象とする。得られた主要な結果は以下の通りである。(1) 安全・安心・健康・社会との連携に関わる活動が行われている。(2)地域の中心部に近い老人クラブと離れた地区の老人クラブとの間の情報格差が大きい。(3)魅力ある老人クラブへの改革が重要課題である。(4)地域との協働が重要であると認識され、地域中心部から離れた地区での老人クラブの主導的役割が期待されている。

キーワード

老人クラブ, 活動, 連携・協働, 共同生活環境維持, 情報化, 対応分析

はじめに

周知の通り、日本は世界一の高齢社会である。

若干、振り返ることになるが、1970年65歳以上の人口比、高齢化率が7%（内閣府，2017）を超え、高齢化社会に至った。1994年14%（内閣府，2017）を超えて高齢社会、2007年には21%（内閣府，2008）を上回り、超高齢社会となった。

そして2016年10月1日現在、27.3%（内閣府，2017）となっている。

その対比として少子化が進展している。いわゆる少子超高齢社会といえる。特に、地方の過疎地においては顕著である。高齢化率が40%を大きく超えた地域も多く存在し、地域の存続に危機感を持っている。過疎化と少子高齢化の進行に伴い65才以上の高齢者が集落人口の半数を超え、冠婚葬祭や田んぼ・生活道路の管理など、社会的な共同生活の機能

*広島文化学園大学大学院 社会情報研究科博士後期課程

Graduate School of Social Information Science, Hiroshima Bunka Gakuen University

**広島文化学園大学大学院 社会情報研究科

Graduate School of Social Information Science, Hiroshima Bunka Gakuen University

を維持することが限界に近づきつつある集落が発生している（大野，2005）。

たとえば、議会の存続（朝日新聞，2017a），ゴミ出し難民（朝日新聞，2017b），地域福祉の担い手（大藤文夫，2016），文化伝承の危機（山下裕作，2005）など社会問題として認識されてきている。

もはや行政だけでは解決できない大きな問題である。この事態を地域全体で支えていく地域協働，すなわち多様な担い手が協働で地域の課題を解決していこうとするものである。

協働によるまちづくりは，多様な担い手の掘り起こしや地域の良さの自覚にもつながる。多様な担い手は，住民であり，行政であり，企業であり，NPO であり，多様である。住民には子どもから高齢者まですべてが係ると考える。

広島県のすべての市町には市民・地域協働に関わる行政の部署が組織され¹⁾，住民を主体とした自治協議会，まちづくり協議会などが活動している。さらに，広島県知事が認証した NPO 団体は 475 団体²⁾あり，多様な事業がなされている。また，行政との協働ばかりではなく NPO 間の協働もみられる。

こういった社会での地域協働に関する研究は多くみられる。前述したように地域の福祉・介護，文化伝承，生活基盤の維持・補修，子育て支援など幅広い。

片岡（片岡ほか，2010）は，市民組織の活動が長期に渡り継続していくためには，活動初期の熟慮された構想と市民組織による各取組みが互いに連動していることがポイントであるとしている。

大藤（大藤ほか，2015，2016）は地域協働の担い手として若い年齢層を期待し，彼らが参加しやすい行事を通して担い手育成を論じている。また，地域福祉の担い手として，まちづくり委員会といったような組織の存在と活動が非常に重要であるとしている。特に，高齢者の孤立予防として高齢者見守り活動の意義を強調している。

山下（山下，2005）は，地域の伝統文化を後世に伝承するためには，まず地域住民による伝統文化の価値発見，実行であり，行政，地域社会，さらに外部からの支援といった地域協働が重要であるとしている。地域住民としては，これまで伝承してきた高齢者の役割は非常に重要である。また，新たな伝承者となる子どもの存在も大変重要である。

著者らは，少子超高齢化が進展している社会では高齢者自身がまちづくりの主役の一員であると考えている。これまで，高齢者はサービスを受ける側であり，受け身の立場であった。しかし，過疎，人口減，超高齢社会の中でのまちづくりにおいては高齢者自身にも積極的な参加が求められる。社会参加には男性女性とも高齢者の参加率 12% と高いことが報告（NHK 放送文化研究所，2011）されている。特に，男性では 70 才以上の参加率が 14% となっている。こういった現状を踏まえても高齢者の地域づくり，まちづくりへの積極的な参加が求められる。同時に行政によるしっかりとした支援と財政が必要となる。

本研究で取り扱うまちづくりとは，生活基盤施設の建設や維持管理ばかりではなく，安全・安心・健康・快適な生活を支える多様なサービスや行為なども含む広範なものである。そこで，本研究は地域協働の担い手として老人クラブがどのような活動を行っているのか，その現状と課題を明らかにする。本研究の老人クラブとは地域の最小単位である単位老人

クラブを指す。なお、老人クラブの組織は、単位老人クラブの連合体である校区（地区）老人クラブ連合会（老連と略す）、校区老連の連合体である市町村老連、その上部組織である都道府県・指定都市老連、全国老連から構成されている。

もともと、老人クラブは、リタイアした高齢者が共助し、豊かな生活を送るために設立され、昭和 38 年に施行された「老人福祉法」第一三条 2 項において、老人福祉を増進するための事業を行う者として位置付けられている。

このような意味においても、本研究は高齢者の社会参加の側面からも社会的な意義は大きいと考える。

1 研究の方法

1. 1 研究対象

政府は、公務員の定年を現在の 60 歳から 65 歳に段階的に延長する方向で検討に入った（朝日新聞，2017c）。定年延長は民間企業でも広がっているが、中高年者の就業に大きな影響を及ぼすことになる。公務員の定年が延長になれば、70 才未満の高齢者にも就業を通して一層の社会貢献が期待される。

現在、退職した中高年者はシルバー人材センター等の紹介により自分の能力を活かして働く生きがいを得、地域社会の活性化に貢献している人が多い。この場合、対価を得ることができる場合もある。

しかし一方で、社会的な共同生活の機能を維持することが限界に近づきつつあることも事実であり、高齢者の社会参加・貢献が求められるところである。高齢者個人が社会に貢献することに関しては躊躇する場合がある。しかし、複数の個人が協働で実行することには抵抗感は小さいであろう。

上述したように老人クラブは、地域を基盤とする高齢者の自主的な組織である。仲間づくりを通して、生きがいと健康づくり、生活を豊かにする楽しい活動を行うとともに、長年培ってきた知識や経験を生かして、地域の諸団体と協働し、地域を豊かにする社会活動に取り組み、明るい長寿社会づくり、保健福祉の向上に努めることを目的としている。

そこで、本研究では地域のまちづくりの一端を担っている老人クラブの活動に焦点を絞り、高齢者の社会参加・貢献について調査、分析することとした。

表 1 には全老連の活動方針³⁾、表 2 には広島県老連の活動方針⁴⁾が示されている。

本研究の調査は、呉市と庄原市の 2 市老連を取り上げ、その末端である 326 単位老人クラブを基本単位としている。呉市は中核都市であり、都市部を有している。庄原市は中山間地の小都市であり、広大な過疎地域を有している。2 市は地方の中小都市の典型であると考えられ、研究対象として妥当であると判断した。

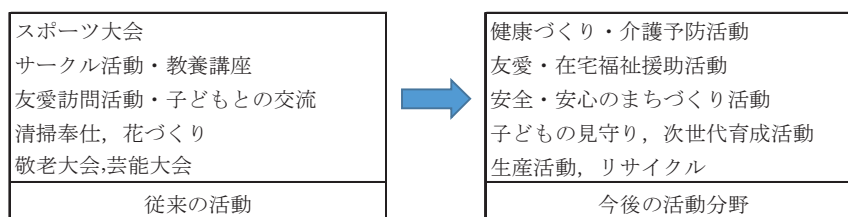
なお、表 3 は呉・庄原両市の老連の組織を示している。

表 1 全老連の活動

生活を豊かにする楽しい活動		地域を豊かにする社会活動	
健康づくり・介護予防	健康学習、いきいきクラブ体操、ウォーキング、各種シニア・スポーツ など	友愛・ボランティア	友愛訪問、集いの場づくり（サロン）、暮らしの支え合い、福祉施設等の訪問、地域のボランティア活動、社会奉仕の日の活動 など
趣味・文化・レクリエーション	交通安全、子どもの見守りパトロール、趣味・文化・芸能などのサークル活動、旅行 など	安心・安全まちづくり	生活課題の調査・点検(モニター)活動、関係機関への提案 など
		世代交流伝承	地域の文化・伝承芸能・民芸・手工芸・郷土史・生活記録等の伝承活動。子どもや青壮年などとの交流活動 など
		環境生産リサイクル	農作物や花の栽培、植林、手工芸品の製作。公園や公共施設の環境整備や運営管理、リサイクル など

出典：公益財団法人全国老人クラブ連合会³⁾

表 2 広島県老連の活動方針



出典：公益財団法人広島県老人クラブ連合会⁴⁾

表 3 呉市・庄原市老連の組織（クラブ数）

老人クラブの組織	呉市	庄原市
市町老人クラブ	1	1
校区（地区）老人クラブ	25	22
単位老人クラブ	212	114

1. 2 調査方法

最初に、広島県、呉市、庄原市の老連事務局を訪問し、ヒヤリング調査を行った。

次に、呉市と庄原市の単位老人クラブを対象に、平成 28 年度老人クラブ事業費補助金等完了報告書に記載されている事業実績の内容を調査、分析した。呉市の 212 単位老人クラブ、庄原市の 114 単位老人クラブの計 326 の事業報告書が対象である。

そして、326 の単位老人クラブが活動しているそれぞれの地区の特性を分析する。特性としては、市中心部（市役所本庁）から校区老連事務局までの距離、校区老連地区内の 65 才以上の人口割合（高齢化率）、同 75 才以上の人口割合（後期高齢化率）である。なお、

人口に関しては2017年国勢調査結果、距離に関しては数値地図を基に計測した。

最後に、中国四国地区の持ち回りで中国四国ブロック老人クラブリーダー研修会が開催されており、その研修会で報告された事業内容について調査した。平成29、28、27、26、25、24年度の研修会レジュメを対象としている。

2 結果と考察

2.1 ヒヤリング結果

以下に広島県老連、呉市老連、庄原市老連においてヒヤリング調査した結果とその考察を示す。

(1) 単位老人クラブの衰退

会員自身の高齢を理由に退会する会員の増加と新規加入者の減少により、単位老人クラブを維持できなくなり、解散するクラブが続出している。2017年3月31日で解散した単位老人クラブは、呉市老連で5、庄原市老連で2に上っている。単位老人クラブの役員や世話役の後継者がいないことが大きな理由である。

(2) 会員数

前期高齢者の入会が減少している。生活、価値観の多様化により、入会による制約を好まない高齢者が増大していることも、会員数減少の大きな原因である。しかし、行政の財政事情は高齢化率の上昇に伴うほどに介護・医療・福祉を支援するのが困難となっており、地域全体での支援、高齢者自らの共助が求められるところである。

(3) 情報格差

両市とも、市中心部に近い単位老人クラブにおいては様々な情報が容易に入手できる。例えば、行政が提供する各種の講座、講習、老人大学等には参加できるが、離れた地区の単位老人クラブでは独自に講座、講習等を実施せざるを得ない。情報格差が大きい。また、情報の質の格差も大きい。

(3) ICT

県および市町老連のICT化が進んでいない。老連および老人クラブ間の情報交換手段は電話、ファクシミリ、郵便、宅配等であり、インターネット環境が整備されていない。早急な整備が求められている。職場でコンピュータを使用していた高齢者が老人クラブ活動に参加するようになると、ICT化は急速に促進される。そして、老人クラブからインターネットで情報発信が容易になる。既に、スマートフォンを駆使する高齢者も多い。しかし、インターネット環境が整っていない、またコンピュータを使っていない高齢者個人も多いのも現実である。まずは、高齢者のコンピュータリテラシーが求められる。これは高齢者だけでなく、一般の人たちにも該当する。

(4) 交通

老人クラブが活動をする場合、必ず交通が発生する。都市部においては公共交通が利用される。しかし、都市部においても公共交通の利便性が劣る地区や、地方では自家用車の

相乗りで目的地に向かわざるを得ない。過疎地においては、スポーツ大会や講習・講座等が開催される場合、地区の社会福祉協議会が所有するバスを使用する場合もあるが、基本は自家用自動車の相乗りである。交通事故における高齢者の第一当事者が大きな問題ともなっており、かつ後期高齢者の運転免許証返納も多くあり、老人クラブ活動の足かせになると考えられる。福祉バス、コミュニティバス等の公共交通利用も課題である。

2. 2 リーダーズ研修会報告からみた活動

表4はリーダー研修で発表された内容を整理したものである。各年とも3ないし4の分科会が設けられ、テーマに沿って報告がされている。表には分科会のテーマと発表の中で報告された今後の課題が示されている。

分科会のテーマとしては、各年とも会員増強、特に若手高齢者の入会について情報交換がなされている。老人クラブの存続に関わる事項である。

次に、健康・介護予防・生きがづくり、安心・安全まちづくり、地域支え合いがテーマとなっている。28年度には友愛奉仕が、29年度には地域づくりが新たなテーマとなっている。老人クラブが高齢者の自助努力、共助、社会貢献、地域協働を積極的に展開している。28年度、29年度には公助に依存することなく共助を進め、さらにまちづくりの主役になろうという新たな活動を進めようとしている。

しかし、活動を進めていく中で多くの課題も指摘されている。表に示された課題をKJ法で整理し、図1に示す。課題は、共助、自助努力、地域協働、クラブ役員、魅力づくり、

表4 リーダー研修の年度別テーマと課題

年度	分科会	テーマ	報告数	報告された課題
29年	第1	のぼさう健康寿命	4	他地域との協働、老人クラブの役割、不参加会員、女性役員、新会員、サボータ育成、担い手確保、活動場所確保、学校教諭転勤と活動中止、ヘルメット着用意識
	第2	担おう地域づくり	3	
	第3	若手の力で活性化と会員増強	3	
28年	第1	会員増強の推進について	3	地域協働、他団体との協働、他老人クラブとの連携、魅力あるクラブづくり、単位クラブの活性化、老人クラブのイメージチェンジ、不参加会員、新役員、不在時安否確認、情報収集・発信
	第2	友愛奉仕活動の推進について	3	
	第3	健康づくり・介護予防活動の推進	3	
27年	第1	会員増強運動の推進	4	他団体との協働、他老人クラブとの連携、魅力ある活動、老人クラブの役割、新会員、クラブ組織、災害時対応、高齢者見守り活動、次世代伝承事業、活動間の連携、継続、情報発信
	第2	地域支え合い活動の推進	4	
	第3	健康づくり、介護予防活動	3	
26年	第1	健康づくり・生きがづくり活動の推進	3	他団体との協働、地域の絆づくり、魅力あるクラブ、後継者、不参加会員、女性会員、新入会員、災害時対応、情報発信、資金確保、個人の内面に関わるサポート、具体的な活動内容把握、継続
	第2	地域支え合い活動の推進と老人クラブの役割	3	
	第3	安心・安全のまちづくり	2	
	第4	会員加入促進と魅力ある老人クラブづくりの推進	3	
25年	第1	健康づくり・生きがづくり・介護予防活動の推進	3	魅力あるクラブ、魅力ある活動実践、新入会員、高齢者個人の努力、災害時対応、不在時安否確認、高齢者の事故防止対策、救急サポート法、安心キットの配置確認、転入者への働きかけ、継続
	第2	地域支え合い活動の推進	3	
	第3	若手高齢者の活動実践と加入促進	2	
	第4	安心・安全なまちづくりの推進	2	
24年	第1	健康づくり・介護予防の推進	3	魅力ある行事づくり、新規クラブの活動支援、クラブの役員構成、不参加会員、次世代交流、個人情報保護、広報、情報収集・発信、活動場所確保、過疎地に在る会場までの交通手段、昼食(お金、人を含めて)、継続
	第2	地域支え合い活動の推進と老人クラブの役割	3	
	第3	若手高齢者の活動実践と加入促進	2	
	第4	高齢者による安心・安全なまちづくりの推進	2	

活動実践，会員，情報発信・広報に分類される。そして，それらをいかに継続できるとしている。

もっとも求められるのは魅力ある老人クラブと行事企画づくりである。これには，全てのクラブ組織が主導し，魅力度向上を図り，末端組織である単位クラブが活性化することが魅力ある組織づくりになる。このことが，行事に参加してこなかった会員にも参加の機運をつくり，新たな若手の中高齢者層の入会にもつながる。さらに，広く地域に情報を発信して地域との協働を進めることにもつながる。地域協働の中で共助を実践することが重要である。共助の方法については，行政や他団体との連携を通して学ぶこともできる。

活動実践に関しては，活動場所までの交通手段が課題として挙げられている。特に，過疎地域での広範なクラブが連携した活動，他団体と連携した活動時には大きな課題である。運転免許証を返納する高齢者が多くなると，相乗りの自家用車ではなく，公共交通を使わざるを得ない場合も生じる。会員個人の責任で行き来している現状を検討する時期かもしれない。

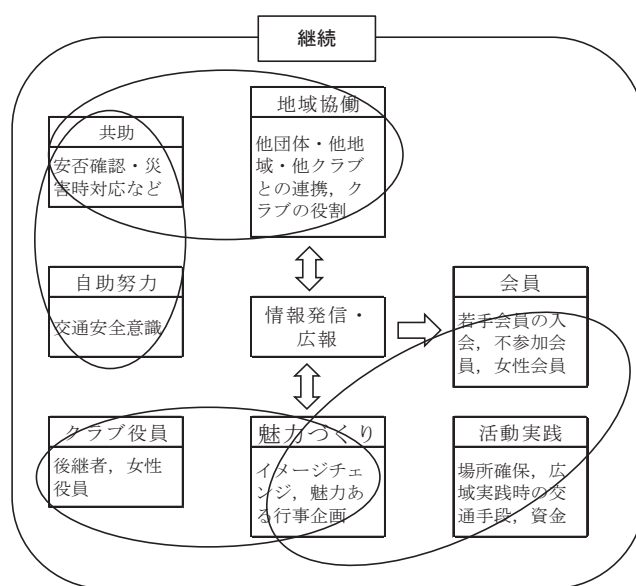


図1 KJ法結果の図示

2. 3 調査対象地域の特性

図2は，1.2で述べた地域特性の関係について示している。市中心部から校区老連までの距離と校区老連内の高齢化率の関係，および後期高齢化率の関係を市域別に示している。

呉市，庄原市ともに市中心部から離れれば，高齢化率，後期高齢化率は高くなる傾向が強い。両市とも，もともと独立して存続していた地区を合併して現在の広範な市域となったため，現在の市中心部だけではなく，複数の拠点をもった都市構造となっている。このことが，図中に示されている相関係数に表れていると考える。いずれにしても，高齢化率

が 50%、60%といった地区が多いことも事実である。

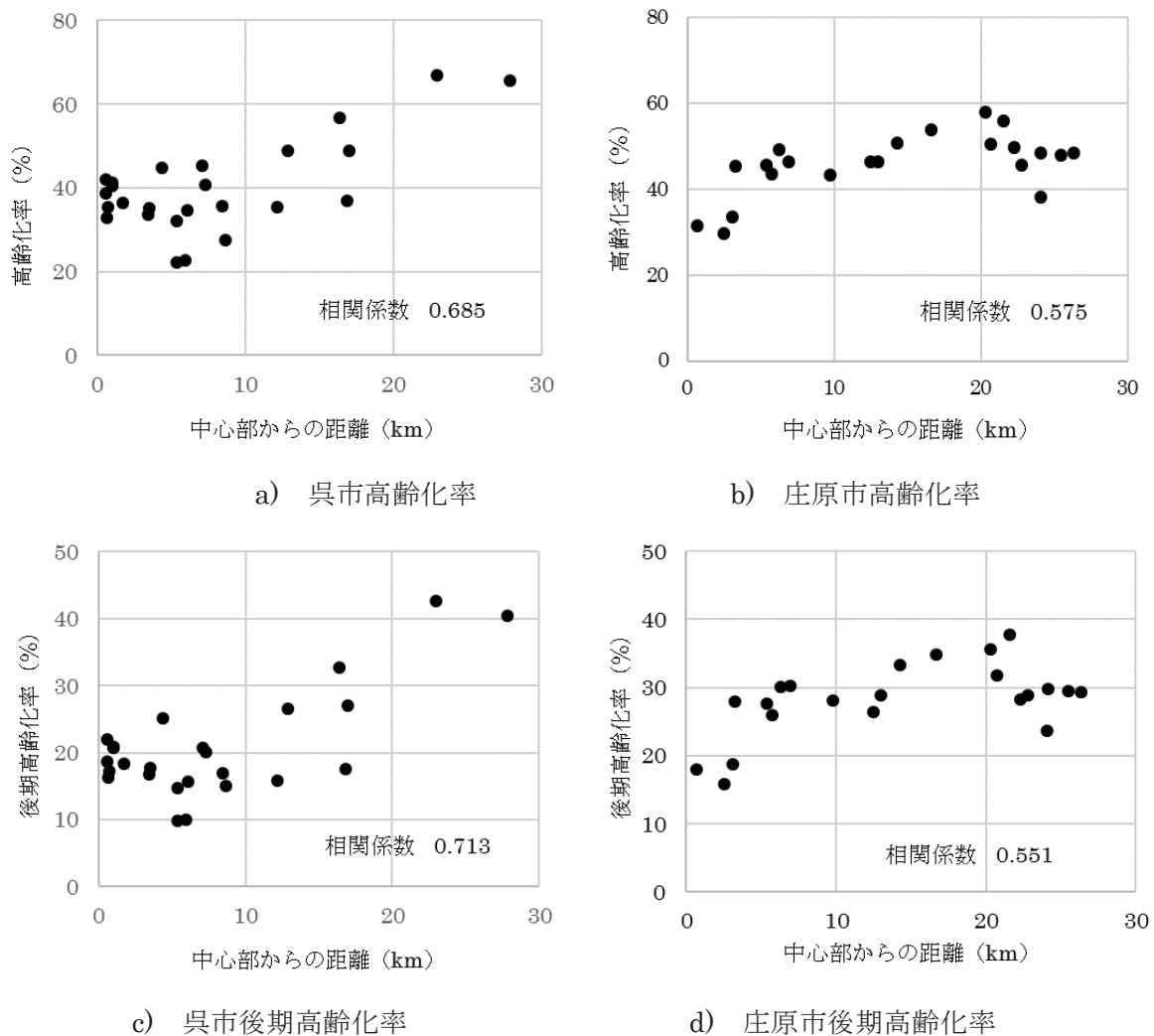


図 2 市中心部からの距離と高齢化率および後期高齢化率

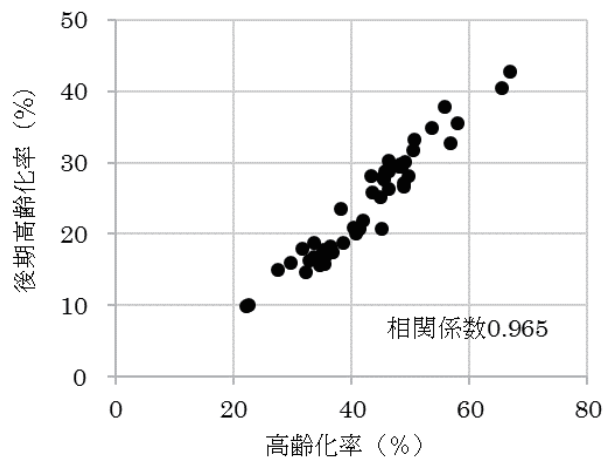


図 3 高齢化率と後期高齢化率

図3は呉と庄原両市における校区别高齢化率と後期高齢化率との関係を示している。両者間の相関係数は0.965と正の関係にある。一般に社会生活の共同体の維持、とりわけ中山間地の耕作地や里山の維持は前期高齢者の双肩に関わってきている。さらに後期高齢者の双肩にも重く押し掛かるのが現状である。

2. 4 活動報告から見えてきたこと

報告書に記載された活動は実に広範囲にわたり、また同様な活動も多様な言葉で表記されている。そこで、広島県老連発行の「これからの老人クラブ活動のあり方に関する報告書」(広島県老人クラブ連合会, 2008)に示されている従来の活動と今後の活動分野(前出表2参照)、および全老連³⁾の活動紹介(前出表1参照)を参考に活動内容を69の活動に統合集約した。

表5は、活動分類別、69の活動別に呉市老連・庄原市老連・両市老連全体別に記載率を示している。なお、表には記載率20%以上の活動が示されている。付録には69活動全てを示す。

記載率30%以上の活動を活動分類で見れば、安全安心まちづくり、健康づくり教室、健

表5 事業報告書に記載された活動

活動分類	事業報告書に記載された活動内容	記載割合 (%)		
		呉	庄原	全体
安全安心まちづくり	交通安全講習会・警察出前講座	39.2	29.8	35.9
	防災・防犯・講習・パトロール	22.2	14	19.3
健康づくり教室	健康研修・教室	45.8	43.9	45.1
健康づくり実践	ウォーキング	39.2	3.5	26.7
親睦会	花見	21.2	26.3	23
	忘年会	11.8	33.3	19.3
	新年会	11.3	20.2	14.4
情報提供	研修・講習・講演など	23.6	25.4	24.2
スポーツ大会	球技大会 (GG・GB・PT・KR)	52.4	79.8	62
	ねんりんピック参加	30.7	0	19.9
生産・リサイクル	資源回収	21.2	17.5	19.9
	花壇・菜園造りと管理	2.4	20.2	8.6
清掃奉仕	神社清掃	44.3	26.3	38
	町内清掃・美化・トイレ清掃	30.2	20.2	26.7
	公園などの清掃・草刈り	29.7	14	24.2
	集会所・ゴミステーション周り清掃	21.2	30.7	24.5
	道路・側溝清掃・草刈り	20.3	11.4	17.2
世代交流伝承	次世代交流	12.3	29.8	18.4
定例会	総会	87.3	76.3	83.4
	役員会・幹事会	80.2	65.8	75.2
友愛活動	慶弔見舞金(熊本地震含む)	0.9	27.2	10.1
友愛・在宅福祉	友愛・家庭訪問・安否確認	15.6	29.8	20.6
レクリエーション	旅行	22.2	18.4	20.9
単老数		212	114	326

■ : 記載率20%以上

康づくり実践，スポーツ大会，清掃奉仕，世代交流伝承，友愛・在宅福祉の活動が多くの単位老人クラブで行われている。もちろん役員会，総会についてはほとんどの単位老人クラブが実施している。要約すれば，安全・安心・健康・社会とのつながりに関わる活動が行われている。

活動内容を具体的にみると，球技大会や健康に係わる研修・教室が半数近い単位老人クラブで，交通安全に係わる講習・講座，不特定多数の人が利用する施設の清掃，次世代交流，友愛・家庭訪問・安否確認，忘年会が30%以上の単位老人クラブで行われている。次いで20%台の活動としては，呉市と庄原市で違いはあるが，親睦会の花見・新年会，研修・講習会，資源回収，道路清掃，熊本地震に伴う慶弔見舞金活動，レクレーシヨンの旅行がある。

これらの活動は，超高齢社会に直面した地区において健康，安否確認，会員同士の交流，他の老人クラブとの交流，さらに担い手が少なく高齢者自身が公共施設の維持管理に関心をもちざるを得ない状況等の表れではないかと考えられる。熊本地震への見舞も行われている。

今後，地域の生活，文化，経済の維持と管理，さらに活性化について自分たちのことは自分たちで行うことが求められている社会である。このことが活動報告から読み取れる。

最後に，ヒヤリング調査で指摘されたICT活用に関してであるが，決められた書式に手書きで作成された報告書と，パーソナルコンピュータで決められた書式を作成，入力，印刷した報告書とがある。手書きとパーソナルコンピュータ利用をカウントした結果を表6に示す。呉市212単位老人クラブ中30単位老人クラブの14.2%，庄原市114単位老人クラブ中41単位老人クラブの36.0%がパーソナルコンピュータを用いている。このパーセンテージが高齢者のコンピュータリテラシーを直接示しているわけではないが，高齢者のコンピュータリテラシーは低いと言える。

表6 事業報告書作成のパーソナルコンピュータ使用

市町老人クラブ	単老数	PC利用率
呉市老人クラブ	212	14.2%
庄原市老人クラブ	114	36.0%

単老：単位老人クラブの略

2. 5 地域での活動

本節で考察する地域特性としては，前述の2.3で示した(1)市域，(2)高齢化率，(3)距離を取り上げる。なお，図2で示されているように高齢化率と後期高齢化率との相関係数が0.965であるため，後期高齢化率は以下の分析では取り上げていない。今後前期高齢者よりも後期高齢者の人口が多くなることは明白であり，後期高齢者の情報も分析に取り入れなければならないが，これに関しては今後の課題である。

事業報告書から得られた活動内容のデータはテキストデータであり、地域特性と活動内容との関連性を分析する手法としてはクロス分析をするのが一般的である。この場合、活動内容同士間や活動内容と地域特性間の関係は2者間の分析が主であり、3者間、4者間といった複数間の関連性を分析することは複雑となり、かつ該当するデータ数もが少なくなる。しかし、3者間以上の関連性を分析することによって見えてくることは計り知れないと考える。

そこで、分析には対応分析を適用することとした。なお、地域特性は数値データであるため、表7に示すよう3分類にカテゴリライズしている。分析に採用した活動内容は、表5および付録に示されている。この活動内容記載割合が5%から1%刻みで10%までの6種類の分析を行った。それぞれの1, 2軸までの累積寄与率を示したものが表8である。

ケース別に寄与率を比較すると、ケース1の累積寄与率は他のケースよりも小さく、1軸が0.2、2軸は0.3よりも小さい。ケース2から6に関しては、いずれのケースの1軸とも寄与率は0.2より大きく、かつケース間に有意な差は認められない。2軸までの累積寄与率はケース2が一番小さくなっているが、他のケースと比較して有意な差はないと判断できる。

表7 地域特性のカテゴリ化

65歳以上人口割合		都市中心部からの距離	
高齢化率	カテゴリ	距離	カテゴリ
35%以下	65その1	～5km	距離その1
35～50%	65その2	5～15km	距離その2
55%以上	65その3	15km以上	距離その3

表8 ケース別2軸までの寄与率

分析種	記載割合	累積寄与率	
		第1軸	第2軸
ケース1	5%	0.191	0.279
ケース2	6%	0.22	0.313
ケース3	7%	0.214	0.314
ケース4	8%	0.227	0.331
ケース5	9%	0.217	0.331
ケース6	10%	0.229	0.347

■ 考察で採用したケース

分析に採用する活動内容の記載割合が小さくなれば、活動内容が限定されてくるので、得られる情報は少なくなる。しかし、分析結果の信頼性の見地からは累積寄与率の高いことが必要となる。これらの点からケース2は、採用する活動内容が多く、累積寄与率も他

図に示してはいないが、3軸の正の方向には「65 その2（高齢化率35～55%）」、「福祉講座」、「スポーツ大会」、「研修旅行」、「老人大学」等が位置し、学習に関わる軸と解釈できる。負の方向には「健康体操」、「健康ストレッチ」、「田休み・泥落とし」、「音楽クラブ」、「いきいきサロン」、「高齢化率35%以下」が位置し、慰労・慰安に関わる軸と解釈できる。なお、3軸までの累積寄与率は38.4%である。

以上の対応分析では地区特性の指標として高齢化率を用いた。他方、中心部からの距離を用いた対応分析の場合、いずれの記載率においても1軸、2軸、3軸等の累積寄与率、活動内容の得点は、高齢化率を用いた対応分析結果と大きな差は認められなかった。さらに、1軸×2軸平面上に示した場合、高齢化率の位置とほぼ同じであった。高齢化率と距離との間の相関係数を追認した結果となっている。

図5は、図4中の高齢化率と市域、さらに高齢化率ではなく距離を用いた記載率6%（ケース2に該当）の対応分析結果の距離と市域を同時に示したものである。

市域に関しては高齢化率、距離いずれの分析結果とも差がない。高齢化率と距離との間には若干差が認められるが、いずれも第1象限から第2象限、第3象限へと変化している。

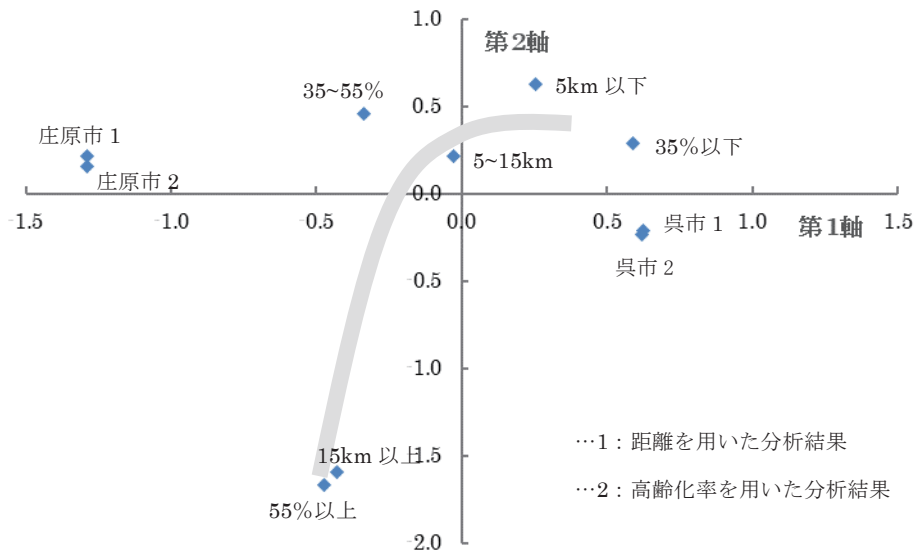


図5 1軸×2軸平面上に示した地域特性（高齢化率，距離，市域）

おわりに

本研究は、超高齢社会において、高齢者が地域社会との連携や社会貢献している実態を調査、考察してきた。特に、地域の各地区で活動している老人クラブを研究対象とした。得られた結果を以下に示す。

(1) 地域に密着した老人クラブは、実に多様な活動を実践している。この活動を継続していくうえで、地域協働や社会貢献ばかりではなく、懇親会、旅行、同好会といった楽し

い活動も積極的になされている。これが、会員の入会に繋がり、地域協働に繋がっていくと考える。

(2) 老人クラブの活動は、動的な活動と静的な活動、生活文化に関して能動的活動と受動的な活動、さらに学習に係る活動、慰労・慰安に係る活動に大別できる。高齢化率の低い老人クラブでは動的・能動的活動が特徴的であるが、高齢化率が高く、地域の中心部から離れた老人クラブは受動的活動に特徴がある。

(3) 老人クラブの情報化は急務であると認識されている。仕事でコンピュータが当たり前といった世代が、前期高齢者、後期高齢者へと年を重ね、単位老人クラブも含めて老人クラブの運営を担うことになれば、情報化は急激に進展し、老人クラブの地域協働は格段に進むことになる。

さらに、老人クラブは一層地域に密着した地域協働、社会貢献を目指しており、中国・四国ブロックリーダー研修がもたれている。研修では特徴ある活動実践が報告されると同時に少数ではあるが、課題についても報告されている。本研究では、課題に注目し、分析もしている。以下に得られた結果をまとめる。

(4) 老人クラブが公助に依存することなく共助を進め、さらにまちづくりの主役になろうという新たな活動を進めている。その中で、魅力ある老人クラブづくりが重要である。このことが、地域との協働を進めることにもつながり、一過性ではなく、継続性のある活動になる。片岡（片岡ほか、2010）や大藤（大藤ほか、2015, 2016）が指摘しているように他の組織と連携、協働することの重要性と重なっている。

(5) また、活動を実践していく中で情報化と交通手段が大きな課題となっている。老人クラブの実態を広く社会に知ってもらうためには、情報発信が重要である。このためには老人クラブのICT環境の整備が急務であり、ICTの知識や経験のある高齢者が大きな役割を担う。また、地域の高齢者のコンピュータリテラシー学習を担うことも求められる。一方、交通手段に関しては、公共交通利用が課題である。運転免許証返納が進みつつある現在、会員個人の責任で行き来している現状を検討する時期である。

謝辞

本研究を進めるにあたって、多くの方々のご支援をいただいた。とりわけ、公益財団法人広島県老人クラブ連合会鈴木会長（公益財団法人呉市老人クラブ連合会会長兼任）、同金岡事務局長、公益財団法人庄原市老人クラブ連合会住田会長、吉田事務局長、公益財団法人広島県、呉市および庄原市老人連合会事務局スタッフの方々に謝意を表します。

参考文献

朝日新聞（2017a）、議員誰が担えば、2017年6月20日朝刊。

朝日新聞（2017b）、ごみ出し5万世帯を支援、2017年9月19日朝刊。

朝日新聞（2017c）、公務員定年65歳を検討—政府年金開始引き上げに対応、2017年9月2日朝刊。

- NHK 放送文化研究所 (2011), 日本人の生活時間 2010, pp.17-18.
- 大藤文夫・鶴岡和幸 (2015), 地域福祉の担い手形成(3)ー多世代協働の観点からー, 広島文化学園大学ネットワーク社会研究センター研究年報, Vol.11, No.1, pp.1-13.
- 大藤文夫・鶴岡和幸 (2016), 地域福祉の担い手形成(2)ー呉市第2地区の見守り活動の実践からー, 広島文化学園大学ネットワーク社会研究センター研究年報, Vol.12, No.1, pp.1-15.
- 大野晃 (2005), 山村環境社会学序説ー現代山村の限界集落化と流域共同管理ー, 農山漁村文化協会.
- 片岡由香・出村嘉史・山口敬太・川崎雅史 (2010), 官民共同の地域づくりにおける市民の自律的役割と活動の継続性に関する研究ー近江八万市を事例としてー, 景観・デザイン研究講演集, No.6, December, pp.212-218.
- 公益財団法人全国老人クラブ連合会・広島県連合老人連合会 (2017), 平成 29 年度中国・四国ブロック老人クラブリーダー研修会レジュメ.
- 公益財団法人全国老人クラブ連合会・広島県連合老人連合会 (2016), 平成 28 年度中国・四国ブロック老人クラブリーダー研修会レジュメ.
- 公益財団法人全国老人クラブ連合会・広島県連合老人連合会 (2015), 平成 27 年度中国・四国ブロック老人クラブリーダー研修会レジュメ.
- 公益財団法人全国老人クラブ連合会・広島県連合老人連合会 (2014), 平成 26 年度中国・四国ブロック老人クラブリーダー研修会レジュメ.
- 公益財団法人全国老人クラブ連合会・広島県連合老人連合会 (2013), 平成 25 年度中国・四国ブロック老人クラブリーダー研修会レジュメ.
- 公益財団法人全国老人クラブ連合会・広島県連合老人連合会 (2012), 平成 24 年度中国・四国ブロック老人クラブリーダー研修会レジュメ.
- 公益財団法人広島県老人クラブ連合会 (2008), これからの老人クラブ活動のあり方に関する報告書, p.10.
- 内閣府 (2008), 平成 19 年版高齢社会白書, p.2.
- 内閣府 (2018), 平成 29 年版高齢社会白書, p.2.
- 山下裕作 (2005), 伝統文化が息づく地域社会の維持・継承, 農村と環境 / 農村環境整備センター 編, pp.76-87.

資料

- 1)広島県県民活動課 (2016), 県内市町の NPO・協働推進担当課一覧
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/43/1249283809183.html> (2017 年 11 月 15 日参照).
- 2)広島県県民活動課 (2017), 広島県知事が認証した NPO 法人,
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/43/1222919823159.html> (2017 年 11 月 15 日参照).

老人クラブの地域社会との連携・協働に関する一考察

3)公益財団法人全国老人クラブ連合会,

<http://zenrouren.com/act/index.html> (2017年11月15日参照)

4)公益財団法人広島県老人クラブ連合会(2015),平成27年度広島県老人クラブ活動状況調査報告書.

付録

活動分類	事業報告書に記載された活動内容	記載割合(%)		
		呉	庄原	全体
安全安心まちづくり	交通安全講習会・警察出前講座	39.2	29.8	35.9
	防災・防犯・講習・パトロール	22.2	14	19.3
	害獣駆除・ホウ酸団子	2.4	0	1.5
	地域づくり研修	0.5	3.5	1.5
介護予防	介護・転倒・認知予防講習会	7.5	8.8	8
	病氣予防・公衆衛生講習	2.8	1.8	2.5
教養講座	老人大学	12.3	7	10.4
	研修旅行(史跡巡り)	9.9	14	11.3
	人権学習・ジェンダー研修	5.7	9.6	7.1
	料理・調理講習	5.2	7	5.8
芸能大会	音楽教室・大会	13.7	4.4	10.4
	舞踊教室・大会	7.1	0.9	4.9
	芸能大会・観劇・絵画鑑賞	6.1	3.5	5.2
健康づくり教室	健康研修・教室	45.8	43.9	45.1
健康づくり実践	ウォーキング	39.2	3.5	26.7
	健康ストレッチ	12.7	0	8.3
	軽体操	10.8	8.8	10.1
	ハイキング	5.7	1.8	4.3
	輪投げ大会	2.4	0.9	1.8
親睦会	花見	21.2	26.3	23
	懇親会	14.2	5.3	11
	忘年会	11.8	33.3	19.3
	新年会	11.3	20.2	14.4
	食事会	3.3	2.6	3.1
	納涼会	1.4	0.9	1.2
	ゲーム	0.5	0.9	0.6
サークル活動	サークル活動	8.5	0	5.5
	文化祭・展示会	6.1	0	4
	手芸教室・俳句・折り紙・絵手紙など	4.7	7.9	5.8
情報提供	研修・講習・講演など	23.6	25.4	24.2
	福祉講演・講座・大会	16.5	5.3	12.6
	町内配布物	0.9	0.9	0.9
	地域情報誌発行	0.9	5.3	2.5
スポーツ大会	球技大会(GG・GB・PT・KR)	52.4	79.8	62
	ねんりんピック参加	30.7	0	19.9
	スポーツ大会	19.3	0	12.6
生産・リサイクル	資源回収	21.2	17.5	19.9
	花壇・菜園造りと管理	2.4	20.2	8.6
	田休み・泥落とし	0.5	16.7	6.1
	農業指導(野菜・エゴマ栽培)	0.5	1.8	0.9
	しめ縄制作	0	5.3	1.8
清掃奉仕	神社清掃	44.3	26.3	38
	町内清掃・美化・トイレ清掃	30.2	20.2	26.7
	公園などの清掃・草刈り	29.7	14	24.2
	集会所・ゴミステーション周り清掃	21.2	30.7	24.5
	道路・側溝清掃・草刈り	20.3	11.4	17.2
	河川清掃・草刈り	6.1	4.4	5.5
	海岸清掃	5.2	0	3.4
	運動場・学校清掃	3.8	4.4	4
	墓地・参道・慰霊碑清掃	1.9	7	3.7
	駅・バス停清掃	1.9	2.6	2.1
世代交流伝承	次世代交流	12.3	29.8	18.4
	交通安全指導・子ども見守り・迎え	10.4	0	6.7
	夏季ラジオ体操	5.2	1.8	4
地区行事	地区運動会	5.2	19.3	10.1
	町内・自治会行事	4.7	6.1	5.2
定例会	総会	87.3	76.3	83.4
	役員会・幹事会	80.2	65.8	75.2
伝統行事	祭り・夏祭り・盆踊り	4.2	9.6	6.1
	ひな祭り・節分など	0.9	2.6	1.5
	とんど	0.5	9.6	3.7
友愛活動	いきいきサロン・誕生会など	12.7	4.4	9.8
	物故者法要・慶弔見舞など	5.7	3.5	4.9
	慶弔見舞金(熊本地震含む)	0.9	27.2	10.1
	敬老会	6.6	14.9	9.5
友愛・在宅福祉	友愛・家庭訪問・安否確認	15.6	29.8	20.6
	福祉施設など訪問	1.4	5.3	2.8
レクリエーション	旅行	22.2	18.4	20.9
	レクリエーション	5.7	0	3.7
	単老数	212	114	326

：記載率20%以上